

事務事業名		図書館維持管理事業		事務事業の性格	毎年繰返事業			開始年度事業期間	平成元年	年度から年度まで	
所属部門	社会教育課 図書館係			課長名	松浦 智幸		担当者名内線番号	藤澤 英樹 内線(507)			
総合 計画 体系	基本目標	個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり			予算 科目	会計区分	款	項	目	予算上の事業名	
	政策名	豊かな心を育む人づくりの推進				一般	9	5	3	図書館維持管理事業	
	施策名	生涯学習の推進									

法令根拠 図書館法(昭和25年4月30日法律第18号)

現状把握の部(Do) → 現在やっていること

◇事務事業の目的と効果

1.手段(事業の概要)

施設、建物、敷地内の維持管理
各種統計業務、利用の管理

2.対象(何を対象にしているか～人、公共施設、自然資源など)

建物、敷地内施設、図書館利用者、町民

3.意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか)

利用環境の快適さ及び利用者数を増やす

4.結果(どんな結果に結び付けるのか)

生涯学習の場の提供、図書館の有効活用並びに快適な環境の維持

5.活動指標(手段や活動内容を表す指標)

名 称	単 位
① 図書館維持管理費	円
② 図書館と敷地内施設等	施設数
③	

6.対象指標(対象の大きさを表す指標)

名 称	単 位
① 図書館施設面積	m ²
② 図書館敷地面積	m ²
③ 図書館資料貸出者数	人

7.成果指標(意図の達成度合を表す指標)

名 称	単 位
① 蔵書冊数	冊
② 図書館資料貸出者数	人
③	

8.上位成果指標(結果の達成度を表す指標)

名 称	単 位
① 図書館資料貸出者数	人
② 貸出冊数	冊
③	

◇総事業費・指標等の推移

→ 事務事業及び各指標の変更

 有 (年度から) 無

内 訳		単位	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (予算)	30年度 (目標)	31年度 (目標)	32年度 (目標)	32年度 (目標)
投 入 量	国・道支出金	円							
	地方債	円							
	その他(使用料等)	円	24,942	22,724	136,000	136,000			
	一般財源	円	14,380,989	14,379,861	14,991,000	14,991,000			
	事業費計(A)	円	14,405,931	14,402,585	15,127,000	15,127,000			
	正職員従事人数	人	2	2	2				
	人工数(業務量)	年間	0.4692	0.4996					
	人件費計(B)	円	3,811,387	4,116,490					
トータルコスト(A)+(B)		円	18,217,318	18,519,075	15,127,000	15,127,000			
活動指標		(1) 円	14,405,931	14,402,585	15,127,000	15,127,000			
		(2) 施設数	2	2	2	2			
		(3)							
対象指標		(1) m ²	1,469.18	1,469.18	1,469.18	1,469.18			
		(2) m ²	9,322.41	9,322.41	9,322.41	9,322.41			
		(3) 人	40,713	39,047	41,000	42,000			
成果指標		(1) 冊	133,362	133,092	133,000	132,000			
		(2) 人	40,713	39,047	41,000	42,000			
		(3)							
上位成果指標		(1) 人	40,713	39,047	41,000	42,000			
		(2) 冊	177,227	169,498	190,000	190,000			
		(3)							

◇事務事業の環境変化

1.この事務事業を開始した背景
平成元年度図書館開館から開始。2.事務事業を取り巻く状況と今後の予測(どう変わったか、どうなるか)
経年劣化が目立つようになってきているが、適切にメンテナンス・改善・改修を行い、利用者が快適に過ごし、多種多目的にいろいろな方が集うことが出来、憩うことの出来る施設となるようスピード一に、そして計画的に維持管理を行う。

事務事業名	図書館維持管理事業	所属部門	社会教育課	図書館係
◇町民等からの意見・要望 → 町民の声をどう反映させたのかをシート下段の改善・改革の概要に明記				
1.町民等からの意見・要望	<input checked="" type="checkbox"/> 意見がある【具体例↓】 ホットボイス: レファレンス室にPC利用者専用スペースを設置してほしい、トイレに温風乾燥機を設置してほしい 利用者アンケート等: 夏場に熱がこもっている、いつもきれいで気持ちが良い、寒い、暗い、いごこちがよい、小さいけれど素晴らしい図書館、落ち着ける、館内気に入っている、他		<input type="checkbox"/> 特定できる意見がない	

※反映させた具体案はシート下段の改善・改革の概要に明記

評価の部(See) → 28年度実績からみた評価

目的妥当性評価	1.町の関与の必要性 なぜ、この事務事業は税金を投入して、町が行わなければならぬのか	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性はある【理由↓】 公共財産であるので。	<input type="checkbox"/> 必要性はない【理由↓】
	2.対象と意図の拡大・縮小余地 対象・意図を広げたり、逆に狭めたりすることはできないか	<input type="checkbox"/> 拡大・縮小できる【→改革改善案へ】 施設、住民、利用者を対象としている。	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大・縮小できない【理由↓】
有効性評価	3.成果の向上余地 事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができるか	<input checked="" type="checkbox"/> 向上できる【→改革改善案へ】 利用者数増を図る。	<input type="checkbox"/> 向上できない【理由↓】
	4.廃止・休止・類似事業との統廃合余地 事務事業を廃止・休止・統廃合した場合、支障があるか	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止・休止・統廃合で影響がある【理由↓】 現状の施設維持が合理的であり図書・視聴覚資料貸出・保存事業を遂行するための容れ物としても必要。	<input type="checkbox"/> 影響がない【→改革改善案へ】
効率性評価	5.事業費(トータルコスト)の削減余地 成果を下げずに事業費・業務時間を縮減する手段・方策はないか	<input type="checkbox"/> 削減できる【→改革改善案へ】 経常経費は縮減を重ねてきている。これまでの屋上防水、ボイラー交換、LED化などの投資がいかされて利用者、町民が必要不可欠と思う施設となるよう計画的に今後も改修改善を継続していく。	<input checked="" type="checkbox"/> 削減できない【理由↓】
	6.受益と負担の適正化余地 提供すべき対象へ提供できているか、費用負担が適切になっているか	<input checked="" type="checkbox"/> 受益・負担が適正である【理由↓】 受益に対する負担を求めることができない事業。	<input type="checkbox"/> 受益・負担が適正でない【→改革改善案へ】

改革・改善の部(Plan) → 上記の町民等の意見・要望や評価結果を受けた改革案・今後(29年度以降)の計画

29年度の取組	1.改革・改善案の概要(現状で想定される課題や解決策がある場合には合わせて記入)	改革・改善実施の方向性			
		予算増大		コスト	
	敷地内樹木管理、ラウンジクラックの補修を行い安全・快適な環境と施設の維持。維持管理長期計画の継続的検討・刷新。			削減	維持
				増加	
		△			
		向上			
		成果			
		維持			○
		低下			

30年度以降の取組	変圧器、空調設備などコストのかかる施設管理について調整・準備。図書館利用者アンケートを定期的に実施し施設要望抽出、現状に対する満足度等を把握。基礎資料として活用。					
	※町民等の意見・要望に対する検討結果					
	レファレンス室のPC利用者用スペースを表示により設置。トイレ温風乾燥機についてはハンカチ使用のお願いを回答。夏場の暑さ対策については実行計画のなかで検討、館内温度については適切なボイラー運転を図る、照明については4ヵ年でLED化実施中。					

事務事業名		図書館協議会運営事業		事務事業の性格	毎年繰返事業			開始年度事業期間	平成元年	年度から年度まで
所属部門	社会教育課 図書館係			課長名	松浦 智幸			担当者名 内線番号	藤澤 英樹 (507)	内線 (507)
総合計画体系	基本目標	個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり			会計区分	款	項	目	予算上の事業名	
	政策名	豊かな心を育む人づくりの推進			一般	9	5	3	図書館協議会運営事業	
	施策名	生涯学習の推進								

法令根拠 図書館法(昭和25年4月30日法律第118号)

現状把握の部(Do) → 現在やっていること

◇事務事業の目的と効果

1.手段(事業の概要)

芽室町図書館協議会の開催

2.対象(何を対象にしているか～人、公共施設、自然資源など)

芽室町図書館協議会委員

3.意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか)

図書館運営に対して意見を述べていただく

4.結果(どんな結果に結び付けるのか)

図書館利用者の増加

5.活動指標(手段や活動内容を表す指標)

名 称	単 位
① 協議会の開催回数	回
②	
③	

6.対象指標(対象の大きさを表す指標)

名 称	単 位
① 協議会委員	人
②	
③	

7.成果指標(意図の達成度合を表す指標)

名 称	単 位
① 述べられた意見の件数	件
②	
③	

8.上位成果指標(結果の達成度を表す指標)

名 称	単 位
① 図書館資料貸出者数	人
② 図書館事業参加者数	人
③	

◇総事業費・指標等の推移

→ 事務事業及び各指標の変更

 有 (年度から) 無

内 訳		単位	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (予算)	30年度 (目標)	31年度 (目標)	32年度 (目標)	32年度 (目標)
投 入 量	国・道支出金	円							
	地方債	円							
	その他(使用料等)	円							
	一般財源	円	112,538	102,814	128,000	128,000			
	事業費計(A)	円	112,538	102,814	128,000	128,000			
	正職員従事人数	人	2	2	2				
	人工数(業務量)	年間	0.0208	0.0226					
	人件費計(B)	円	168,962	186,214					
トータルコスト(A)+(B)		円	281,500	289,028	128,000	128,000			
活動指標		(1) 回	3	2	3	3			
		(2)							
		(3)							
対象指標		(1) 人	8	8	8	8			
		(2)							
		(3)							
成果指標		(1) 件	40	33	25	25			
		(2)							
		(3)							
上位成果指標		(1) 人	40,713	39,047	41,000	42,000			
		(2) 人	6,305	12,996	12,996	12,996			
		(3)							

◇事務事業の環境変化

1.この事務事業を開始した背景

平成元年度開館により、法令で定められた協議会を設置

2.事務事業を取り巻く状況と今後の予測(どう変わったか、どうなるか)

住民中心の公共図書館運営において図書館協議会の意義は大きい。

事務事業名	図書館協議会運営事業	所属部門	社会教育課	図書館係
◇町民等からの意見・要望 → 町民の声をどう反映させたのかをシート下段の改善・改革の概要に明記				
1.町民等からの意見・要望	<input type="checkbox"/> 意見がある【具体例↓】		<input checked="" type="checkbox"/> 特定できる意見がない	

この事務事業に対して、町民からのホットボイスなどの広聴制度、また、議会や関係者からの意見・要望が寄せられているか

※反映させた具体案はシート下段の改善・改革の概要に明記

評価の部(See) → 28年度実績からみた評価

目的妥当性評価	1.町の関与の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性はある【理由↓】 なぜ、この事務事業は税金を投入して、町が行わなければならぬのか	<input type="checkbox"/> 必要性はない【理由↓】 地方公共団体・教育委員会が図書館協議会の設置運営について責任を負う。
	2.対象と意図の拡大・縮小余地	<input type="checkbox"/> 拡大・縮小できる【→改革改善案へ】 対象・意図を広げたり、逆に狭めたりすることはできないか	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大・縮小できない【理由↓】 図書館協議会の枠を越えた図書館運営に対する意見等は別事業の範疇となる。
有効性評価	3.成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上できる【→改革改善案へ】 事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができるか	<input checked="" type="checkbox"/> 向上できない【理由↓】 適切な意見が寄せられている現状で数の増のみを目的とすべきでない。
	4.廃止・休止・類似事業との統廃合余地	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止・休止・統廃合で影響がある【理由↓】 事務事業を廃止・休止・統廃合した場合、支障があるか	<input type="checkbox"/> 影響がない【→改革改善案へ】 事業検証機能の減。
効率性評価	5.事業費(トータルコスト)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減できる【→改革改善案へ】 成果を下げずに事業費・業務時間を縮減する手段・方策はないか	<input checked="" type="checkbox"/> 削減できない【理由↓】 全庁統一単価で最大の効果を発揮すべく運営している。
	6.受益と負担の適正化余地	<input checked="" type="checkbox"/> 受益・負担が適正である【理由↓】 提供すべき対象へ提供できているか、費用負担が適切になっているか	<input type="checkbox"/> 受益・負担が適正でない【→改革改善案へ】 受益者負担の概念の適さない事業である。

改革・改善の部(Plan) → 上記の町民等の意見・要望や評価結果を受けた改革案・今後(29年度以降)の計画

29年度の取組	1.改革・改善案の概要(現状で想定される課題や解決策がある場合には合わせて記入) 委員公募、改選、任命、協議会開催(3回)、先進地視察、研修派遣、運営に対する意見収集のほか2つの計画の更新にも役割を担っていただく。	改革・改善実施の方向性																									
		現状維持		2.改革・改善による期待成果																							
30年度以降の取組	協議会実施、先進地視察、研修派遣、諮問に対しての答申。			<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">コスト</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			コスト				削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下				
		コスト																									
		削減	維持	増加																							
成果	向上																										
	維持		○																								
	低下																										

※町民等の意見・要望に対する検討結果

事務事業名		図書館ボランティアサークル活動支援事業			事務事業の性格	毎年繰返事業			開始年度事業期間	平成 2 年度から年度まで	
所属部門	社会教育課 図書館係			課長名	松浦 智幸			担当者名内線番号	片桐 るみ 内線 (507)		
総合 計画 体系	基本目標	個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり			予算 科目	会計区分	款	項	目	予算上の事業名	
	政策名	豊かな心を育む人づくりの推進				一般	9	5	3	図書館ボランティアサークル活動支援事業	
	施策名	生涯学習の推進									

法令根拠 図書館法(昭和25年4月30日法律第118号)

現状把握の部(Do) → 現在やっていること

◇事務事業の目的と効果

1.手段(事業の概要)

図書館で活動するボランティアサークル4団体と個人ボランティアに活動の場を提供。
図書館事業への参画。

*おはなし会の実施(1団体)*布の絵本作製・寄贈(1団体)

*人形劇の開催(1団体)*朗読、音訳CD制作(1団体)

ブックスタートボランティア、配架ボランティア、支援ボランティア、日曜おはなし会ボランティア、大人のためのお話し会おはなしポケットに装備ボランティアが増え計6事業

2.対象(何を対象にしているか～人、公共施設、自然資源など)

図書館ボランティアサークル4団体と個人ボランティア6事業の活動

3.意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか)

図書館事業への積極的な参画

4.結果(どんな結果に結び付けるのか)

図書館振興、図書館資料貸出者増につなげる

5.活動指標(手段や活動内容を表す指標)

名 称		単 位
①	サークル数	団体
②	個人ボランティア参加事業数	事業
③		

6.対象指標(対象の大きさを表す指標)

名 称		単 位
①	団体の会員数	人
②	個人ボランティア	人
③		

7.成果指標(意図の達成度合を表す指標)

名 称		単 位
①	例会の開催数	回
②	ボランティアサークルによる図書館事業実施回数	回
③	図書館事業個人ボランティア参加回数	回

8.上位成果指標(結果の達成度を表す指標)

名 称		単 位
①	図書館資料貸出者数	人
②	ボランティアサークル行事参加者数	人
③	図書館事業個人ボランティア参加者数	人

◇総事業費・指標等の推移

→ 事務事業及び各指標の変更

 有 (年度から) 無

内 訳		単位	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (予算)	30年度 (目標)	31年度 (目標)	32年度 (目標)	32年度 (目標)
投 入 量	国・道支出金	円							
	地方債	円							
	その他(使用料等)	円							
	一般財源	円	251,529	222,271	262,000	262,000			
	事業費計(A)	円	251,529	222,271	262,000	262,000			
	正職員従事人数	人	2	2	2				
	人件費(業務量)	年間	0.0833	0.1199					
人 件 費	人件費計(B)	円	676,659	987,925					
	トータルコスト(A)+(B)	円	928,188	1,210,196	262,000	262,000			
活動指標	(1) 団体		5	4	4	4			
	(2) 事業		5	6	6	6			
	(3)								
対象指標	(1) 人		61	52	52	52			
	(2) 人		31	30	30	30			
	(3)								
成果指標	(1) 回		100	93	93	93			
	(2) 回		25	15	15	15			
	(3) 回		260	204	204	204			
上位成果指標	(1) 人		40,713	39,047	41,000	42,000			
	(2) 人		1,141	914	914	914			
	(3) 人		552	450	450	450			

◇事務事業の環境変化

1.この事務事業を開始した背景

平成2年度ボランティアサークルの活動受け入れから開始

2.事務事業を取り巻く状況と今後の予測(どう変わったか、どうなるか)

図書館ボランティアネットワークが中心となり図書館まつりを開催するなど、各団体、個人が連携した中で、それぞれの特性を生かした活動が行われるようになった。平成28年度に活動をとりやめてしまったおはなし会の後任はまだ見つかっていないため、引き続き10ヶ月健診の翌日に司書がおはなし会を開催している。支援ボランティア(修理)が主となり、平成29年3月より装備ボランティアを立ち上げることになった。

事務事業名	図書館ボランティアサークル活動支援事業	所属部門	社会教育課	図書館係
◇町民等からの意見・要望 → 町民の声をどう反映させたのかをシート下段の改善・改革の概要に明記				
1.町民等からの意見・要望	<input type="checkbox"/> 意見がある【具体例↓】		<input checked="" type="checkbox"/> 特定できる意見がない	

この事務事業に対して、町民からのホットボイスなどの広聴制度、また、議会や関係者からの意見・要望が寄せられているか

※反映させた具体案はシート下段の改善・改革の概要に明記

評価の部(See) → 28年度実績からみた評価

目的妥当性評価	1.町の関与の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性はある【理由↓】 なぜ、この事務事業は税金を投入して、町が行わなければならぬのか	<input type="checkbox"/> 必要性はない【理由↓】 毎月定例で事業を実施し、図書館機能の一部となっている
	2.対象と意図の拡大・縮小余地	<input type="checkbox"/> 拡大・縮小できる【→改革改善案へ】 対象・意図を広げたり、逆に狭めたりすることはできないか	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大・縮小できない【理由↓】 自主的な活動への側面支援であるので、こちらから意図的に指示したり、逆に妨げるのは望ましくない
有効性評価	3.成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上できる【→改革改善案へ】 事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができるか	<input type="checkbox"/> 向上できない【理由↓】 熱意のある会員、団体を中心周知活動や関連行事などで更に向上させたい
	4.廃止・休止・類似事業との統廃合余地	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止・休止・統廃合で影響がある【理由↓】 事務事業を廃止・休止・統廃合した場合、支障があるか	<input type="checkbox"/> 影響がない【→改革改善案へ】 読み聞かせ、人形劇、広報誌すまいる音訳CD、布絵本の制作など、その活動は図書館運営の一部を担っており、廃止・休止は図書館活動に大きな影響がある
効率性評価	5.事業費(トータルコスト)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減できる【→改革改善案へ】 成果を下げずに事業費・業務時間を縮減する手段・方策はないか	<input checked="" type="checkbox"/> 削減できない【理由↓】 町からの報償費は、図書館利用者に提供している音訳CD、布絵本、工作など成果品の材料費等として使用されており、不足分は自費財源で賄う等、作業は全てボランティア活動として行っていることから、削減の余地はない
	6.受益と負担の適正化余地	<input checked="" type="checkbox"/> 受益・負担が適正である【理由↓】 提供すべき対象へ提供できているか、費用負担が適切になっているか	<input type="checkbox"/> 受益・負担が適正でない【→改革改善案へ】 全てにおいてボランティアなので、適切である

改革・改善の部(Plan) → 上記の町民等の意見・要望や評価結果を受けた改革案・今後(29年度以降)の計画

29年度の取組	1.改革・改善案の概要(現状で想定される課題や解決策がある場合には合わせて記入)	改革・改善実施の方向性			
		目的拡充		2.改革・改善による期待成果	
平成29年度は網走市で開催される北海道子どもの本のつどいにボランティアサークルから2名参加し、他市町村のボランティア団体やサークルとの情報交換や交流を図り、スキルアップと今後の活動につなげる。	図書館ボランティアネットワークを中心とした実行委員会による図書館まつりを行う。昨年の反省から規模縮小、内容の見直し等の意見が出たので今年度は改善する。開館30年に向けての講演会を開催する予定なので早めに実行委員会を立ち上げ準備を進める。	△	コスト	削減	維持
支援ボランティアが主となりH29年3月より装備ボランティアが始まり、個人ボランティアは6事業になった。指導、育成に努め町内書店購入率の向上を目指す。		○	増加		
平成29年度と同様		成績向上			
		維持			
		低下			

※町民等の意見・要望に対する検討結果

事務事業名		読書活動推進事業		事務事業の性格	毎年繰返事業			開始年度事業期間	昭和 49 年度から年度まで		
所属部門	社会教育課		図書館係	課長名	松浦 智幸		担当者名内線番号	片桐 るみ 内線 (507)			
総合 計画 体系	基本目標	個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり			予算 科目	会計区分	款	項	目	予算上の事業名	
	政策名	豊かな心を育む人づくりの推進				一般	9	5	3	読書活動推進事業	
	施策名	生涯学習の推進									

法令根拠 図書館法(昭和25年4月30日法律第118号)

現状把握の部(Do) → 現在やっていること

◇事務事業の目的と効果

1.手段(事業の概要)

- ・講座の開催(大人、子ども向け)
- ・ブックスタート事業
- ・読書感想文コンクール
- ・団体貸出
- ・展示の開催

2.対象(何を対象にしているか～人、公共施設、自然資源など)

利用者及び町民

3.意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか)

- ・新規登録者の増加
- ・乳幼児期から絵本に親しむ機会づくり
- ・読書を通じた子育て、人づくり
- ・学校図書館の環境整備・活性化

4.結果(どんな結果に結び付けるのか)

- ・図書館利用者の増加
- ・朝の10分間読書「朝読」の実施による児童生徒の読書の定着

5.活動指標(手段や活動内容を表す指標)

名 称	単 位
① 事業の参加者数	人
② 学校図書館活動支援	回
③	

6.対象指標(対象の大きさを表す指標)

名 称	単 位
① 町人口	人
② 登録者数	人
③ 町内小中学校児童生徒数	人

7.成果指標(意図の達成度合を表す指標)

名 称	単 位
① 新規登録者数(町内)	人
② 子どもの図書館利用者	人
③ その他団体等事業実施回数	回

8.上位成果指標(結果の達成度を表す指標)

名 称	単 位
① 図書館資料貸出者数	人
② 小中学校への団体貸出冊数	冊
③	

◇総事業費・指標等の推移

→ 事務事業及び各指標の変更

 有 (年度から) 無

内 訳		単位	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (予算)	30年度 (目標)	31年度 (目標)	32年度 (目標)	32年度 (目標)
投 入 量	国・道支出金	円							
	地方債	円							
	その他(使用料等)	円	5,600						
	一般財源	円	629,151	538,805	602,000	602,000			
	事業費計(A)	円	634,751	538,805	602,000	602,000			
	正職員従事人数	人	2	2	2				
	人工数(業務量)	年間	0.1167	0.2109					
	人件費計(B)	円	947,973	1,737,726					
トータルコスト(A)+(B)		円	1,582,724	2,276,531	602,000	602,000			
活動指標		(1) 人	5,415	12,196	12,196	12,196			
		(2) 回	1	1	1	1			
		(3)							
対象指標		(1) 人	18,950	18,809	18,809	18,809			
		(2) 人	12,817	13,298	13,298	13,298			
		(3) 人	1,904	1,863	1,836	1,836			
成果指標		(1) 人	328	298	298	298			
		(2) 人	6,918	6,677	6,677	6,677			
		(3) 回	396	314	314	314			
上位成果指標		(1) 人	40,713	39,047	41,000	42,000			
		(2) 冊	4,089	3,161	3,161	3,161			
		(3)							

◇事務事業の環境変化

1.この事務事業を開始した背景

児童・生徒が読書に親しむことを目的に、昭和49年に読書感想文コンクールを開始した。また、乳幼児期から本に親しむ機会づくりとして、保健福祉課(平成20年度からは、子育て支援課)と連携しブックスタート事業を開始した。

2.事務事業を取り巻く状況と今後の予測(どう変わったか、どうなるか)

読書感想文コンクールは、児童・生徒の読書に親しむきっかけづくりとして長くから行われており、今後も継続していく事業である。すくなく広場を利用している母親からの声を聞きすく広場での貸出を月に1回行った。希望があった学校へ出向き「移動図書館」を開催した。今後も継続し、希望のある他の学校での移動図書館を行えるよう働きかける。季節に合わせた「ぬり絵」を年間を通して行い、図書館利用へのきっかけ作りをした。

事務事業名	読書活動推進事業	所属部門	社会教育課	図書館係
◇町民等からの意見・要望 → 町民の声をどう反映させたのかをシート下段の改善・改革の概要に明記				
1.町民等からの意見・要望	<input checked="" type="checkbox"/> 意見がある【具体例↓】 楽しみしていた映画会に出かけたが、椅子が用意されていなかった。上映を始めてもなかなか映らなく機械の故障で中止になった。事前に周知して集客したことなので、もう少し丁寧な対応をお願いしたい。			<input type="checkbox"/> 特定できる意見がない

※反映させた具体案はシート下段の改善・改革の概要に明記

評価の部(See) → 28年度実績からみた評価

目的妥当性評価	1.町の関与の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性はある【理由↓】 なぜ、この事務事業は税金を投入して、町が行わなければならぬのか	<input type="checkbox"/> 必要性はない【理由↓】 読書活動の推進は、生涯学習の一つとして欠かすことのできない事業であり、町が行うのが妥当である。
	2.対象と意図の拡大・縮小余地	<input type="checkbox"/> 拡大・縮小できる【→改革改善案へ】 対象・意図を広げたり、逆に狭めたりすることはできないか	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大・縮小できない【理由↓】 全ての町民を対象にしている事業であり、継続的に実施することにより成果が期待できる。
有効性評価	3.成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上できる【→改革改善案へ】 事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができるか	<input type="checkbox"/> 向上できない【理由↓】 事業を行うことにより、潜在的な利用者の掘り起こしを図り新規利用や、貸出の増加につなげることができる。
	4.廃止・休止・類似事業との統廃合余地	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止・休止・統廃合で影響がある【理由↓】 事務事業を廃止・休止・統廃合した場合、支障があるか	<input type="checkbox"/> 影響がない【→改革改善案へ】 読書推進事業の休廃止は、町民の心の豊かさや生きがいを支援する生涯学習の機会を失うことに繋がる。
効率性評価	5.事業費(トータルコスト)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減できる【→改革改善案へ】 成果を下げずに事業費・業務時間を縮減する手段・方策はないか	<input checked="" type="checkbox"/> 削減できない【理由↓】 ブックスタート事業や読書感想文コンクール等は乳幼児期、児童・生徒を対象とした事業であり、その対象者数と比べ事業費自体が小規模であり削減の余地はない。
	6.受益と負担の適正化余地	<input checked="" type="checkbox"/> 受益・負担が適正である【理由↓】 提供すべき対象へ提供できているか、費用負担が適切になっているか	<input type="checkbox"/> 受益・負担が適正でない【→改革改善案へ】 布の絵本サークルひよこひよこによる夏休み子ども講座では材料費のみ負担金をいただいている。

改革・改善の部(Plan) → 上記の町民等の意見・要望や評価結果を受けた改革案・今後(29年度以降)の計画

29年度の取組	1.改革・改善案の概要(現状で想定される課題や解決策がある場合には合わせて記入)	改革・改善実施の方向性			
		目的拡充		2.改革・改善による期待成果	
29年度の取組	すぐすぐ広場を利用している母親からの声を反映させてすぐすぐ広場での貸出を月に1回行う。希望があった学校(1校)へ出向き「移動図書館(移動貸出)」を開催した。他の学校でも移動図書館ができるよう働きかける。図書館利用へのきっかけ作りとして、季節に合わせたぬり絵を年間で行い親子連れ等に好評のため継続していく。			<input type="checkbox"/> 削減 <input type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 低下	<input type="checkbox"/> コスト <input type="checkbox"/> 削減 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 増加
30年度以降の取組	29年度と同様				

※町民等の意見・要望に対する検討結果

前日までに他係からプロジェクターを借用しておく。当日は試写、映写機械の動作再確認を行い、椅子は多めに準備する。映画開始時間前までに職員は昼食休憩を済ませておく。

事務事業名		図書・視聴覚資料の貸出・保存事業		事務事業の性格	毎年繰返事業			開始年度事業期間	平成元年度から年度まで		
所属部門	社会教育課		図書館係	課長名	松浦 智幸		担当者名内線番号	藤澤 英樹 内線(507)			
総合 計画 体系	基本目標	個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり			予算 科目	会計区分	款	項	目	予算上の事業名	
	政策名	豊かな心を育む人づくりの推進				一般	9	5	3	図書・視聴覚資料の貸出・保存事業	
	施策名	生涯学習の推進									

法令根拠 図書館法(昭和25年4月30日法律第118号)

現状把握の部(Do) → 現在やっていること

◇事務事業の目的と効果

1.手段(事業の概要)

利用者への資料提供(閲覧・貸出)

資料の取得・管理・保存

延滞者への返却督促

蔵書点検

2.対象(何を対象にしているか～人、公共施設、自然資源など)

図書館利用登録者、資料、町民

3.意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか)

適切に資料を管理し、利用者へ提供する。

4.結果(どんな結果に結び付けるのか)

生涯学習支援による利用者の自己学習の充実

5.活動指標(手段や活動内容を表す指標)

名 称	単 位
① 開館日数	日
②	
③	

6.対象指標(対象の大きさを表す指標)

名 称	単 位
① 登録者数	人
② 蔵書冊数	冊
③ 町民	人

7.成果指標(意図の達成度合を表す指標)

名 称	単 位
① 町民1人当たりの貸出冊数	冊
② 貸出冊数	冊
③	

8.上位成果指標(結果の達成度を表す指標)

名 称	単 位
① 図書館資料貸出者数	人
② 不明資料数	冊
③	

◇総事業費・指標等の推移

→ 事務事業及び各指標の変更

 有 (年度から) 無

内 訳		単位	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (予算)	30年度 (目標)	31年度 (目標)	32年度 (目標)	32年度 (目標)
投 入 量	国・道支出金	円							
	地方債	円							
	その他(使用料等)	円	1,645,979	1,703,182	1,986,000	1,986,000			
	一般財源	円	23,507,228	23,936,006	25,001,000	25,001,000			
	事業費計(A)	円	25,153,207	25,639,188	26,987,000	26,987,000			
	正職員従事人数	人	2	2	2				
	人工数(業務量)	年間	0.6558	0.5967					
	人件費計(B)	円	5,327,168	4,916,553					
トータルコスト(A)+(B)		円	30,480,375	30,555,741	26,987,000	26,987,000			
活動指標		(1) 日	293	291	292	291			
		(2)							
		(3)							
対象指標		(1) 人	12,817	13,298	13,298	13,298			
		(2) 冊	133,362	133,092	133,000	132,000			
		(3) 人	18,950	18,809	18,809	18,809			
成果指標		(1) 冊	9.35	9.01	9.57	9.57			
		(2) 冊	177,227	169,498	190,000	190,000			
		(3)							
上位成果指標		(1) 人	40,713	39,047	41,000	42,000			
		(2) 冊	169	137	120	110			
		(3)							

◇事務事業の環境変化

1.この事務事業を開始した背景
平成元年度図書館開館から2.事務事業を取り巻く状況と今後の予測(どう変わったか、どうなるか)
出版不況の影響(出版点数の増から地方書店の減少まで)。電子書籍やオンラインサービスを公共図書館がいかに活用していくか。学校、学校図書館との連携の推進。高齢者対象の施設整備・奉仕。

事務事業名	図書・視聴覚資料の貸出・保存事業	所属部門	社会教育課	図書館係
◇町民等からの意見・要望 → 町民の声をどう反映させたのかをシート下段の改善・改革の概要に明記				
1.町民等からの意見・要望	<input checked="" type="checkbox"/> 意見がある【具体例↓】 ホットボイス:、電話で貸出延長してほしい、定休日を無くしてほしい、棚の上に本を並べて紹介してほしい 利用者アンケート他:DVDを増やしてほしい、趣味の本が古くて少ない、女性雑誌がいつも残っていない、子供が少々騒いでも見逃してくれてありがたい、夜8時までを週2、3回に増やしてほしい、職員は礼儀正しくあいさつしてくれる、希望を取り入れリクエストに応えてくれてありがたい 他	<input type="checkbox"/> 特定できる意見がない		

※反映させた具体案はシート下段の改善・改革の概要に明記

評価の部(See) → 28年度実績からみた評価

目的妥当性評価	1.町の関与の必要性 なぜ、この事務事業は税金を投入して、町が行わなければならぬのか	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性はある【理由↓】 公共図書館として運営する。	<input type="checkbox"/> 必要性はない【理由↓】
	2.対象と意図の拡大・縮小余地 対象・意図を広げたり、逆に狭めたりすることはできないか	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大・縮小できる【→改革改善案へ】 乳幼児期からの啓発や広域利用の促進により利用者の増大を図ることができる。	<input type="checkbox"/> 拡大・縮小できない【理由↓】
有効性評価	3.成果の向上余地 事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができるか	<input checked="" type="checkbox"/> 向上できる【→改革改善案へ】 貸出冊数、利用者数を増大させることができる。	<input type="checkbox"/> 向上できない【理由↓】
	4.廃止・休止・類似事業との統廃合余地 事務事業を廃止・休止・統廃合した場合、支障があるか	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止・休止・統廃合で影響がある【理由↓】 類似事業なし。公共図書館事業の廃止は教育と文化の振興に深刻な損失をもたらす。	<input type="checkbox"/> 影響がない【→改革改善案へ】
効率性評価	5.事業費(トータルコスト)の削減余地 成果を下げずに事業費・業務時間を縮減する手段・方策はないか	<input type="checkbox"/> 削減できる【→改革改善案へ】 選書会議等を経て効率の良い予算執行を心掛けて図書館運営を行っており、予算の縮減は資料構成に大きな影響が及ぶこととなる。	<input checked="" type="checkbox"/> 削減できない【理由↓】
	6.受益と負担の適正化余地 提供すべき対象へ提供できているか、費用負担が適切になっているか	<input checked="" type="checkbox"/> 受益・負担が適正である【理由↓】 受益者負担非該当事業(図書館法第17条) 受益者負担非該当事業(図書館法第17条)	<input type="checkbox"/> 受益・負担が適正でない【→改革改善案へ】

改革・改善の部(Plan) → 上記の町民等の意見・要望や評価結果を受けた改革案・今後(29年度以降)の計画

29年度の取組	1.改革・改善案の概要(現状で想定される課題や解決策がある場合には合わせて記入)	改革・改善実施の方向性																	
		目的絞込		2.改革・改善による期待成果															
ミニ展示や季節展示、展示コーナーを利用した資料展示などテーマを絞った資料展示事業を継続して実施。中小図書館として適正な開架資料数を心がけ受け入れと除籍のバランスを考慮し見やすく魅力的な棚作りを行う。開館30周年記念事業の企画・準備。職員の資質向上のため各種研修へ派遣。臨時図書館司書の身分・待遇について諸事情を鑑みどのような形態がベターなのか決定する。				<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>△</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>△</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>△</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	コスト		削減	維持	増加	△	○		△			△			
コスト																			
削減	維持	増加																	
△	○																		
△																			
△																			
30年度以降の取組	町村図書館の規模を活かし、地域の情報を網羅し発信する施設として情報発信機能に特化。図書館の重要な機能である参考調査業務(レファレンスサービス)を行う司書の資質向上、能力向上のため職員研修参加。広域利用が堅調な当町の特性を活かした図書館運営の研究。視聴覚資料や図書資料は計画的な受入を行っている。																		

※町民等の意見・要望に対する検討結果

電話による貸出延長を平成29年度から実施、現状のサービス維持のまま休館日撤廃は困難と結論、書架の整頓を心がけミニ展示や季節展示で資料紹介を行うこととした。

視聴覚資料や図書資料は計画的整備を行っている、貸出中の資料は予約をお勧めしている、開館時間の増加は継続的に研究検討していく。

平成 29 年度

事務事業マネジメントシート
(簡易シート)

作成日 平成 29 年 4 月 17 日

事務事業名		利用者学習・調査支援事業		事務事業の性格	毎年繰返事業	開始年度 事業期間	平成 元 年度から 年度まで	
所属 部門	社会教育課	図書館係	課長名	松浦 智幸	担当者名	藤澤 英樹	内線 (507)	
総合 計画 体系	基本目標	個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり		根拠 法令	図書館法(昭和25年4月30日法律第118号)			
	政策名	豊かな心を育む人づくりの推進						
	施策名	生涯学習の推進						
簡易シートを 選択した理由		<input checked="" type="checkbox"/> 予算を伴わない事業 <input type="checkbox"/> 計上予算が負担金、繰出金のみの事業		<input type="checkbox"/> 政策体系に結びつかない事業 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				

〔事業の概要〕

利用者の調査研究支援、出版情報や地域資料・地域の情報についての調査支援や相談業務

他図書館の資料や情報を必要とする調査の支援

学校教育活動の支援や総合的な学習の支援

調べ学習、職業体験学習、インターンシップ、図書館課程の実習受入

〔改革・改善案の概要〕

改革・改善実施の方向性

現状維持

貸出・閲覧に並んでこの事業は公共図書館の主要なサービスとなっている。

電子情報に簡単にアクセスできる現代だからこそ逆に信頼度の高い図書資料の重要度が増している。

館内外の研修を重ね職員の資質向上を目指す。

内 訳		単位	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (予算)
事業 費 投 入 量	国・道支出金	円			
	地方債	円			
	その他(使用料等)	円			
	一般財源	円			
	事業費計(A)	円	0	0	0
人 件 費	正職員従事人数	人	2	2	
	人工数(業務量)	年間	0.0400	0.0629	
	人件費計(B)	円	324,926	518,269	
	トータルコスト(A)+(B)	円	324,926	518,269	0